



知床科学委員会 しんぶん

エゾシカ・陸上生態系

ワーキンググループ NO.1

知床世界自然遺産地
域科学委員会

エゾシカ・陸上生態系
ワーキンググループ

海域ワーキンググループ

適正利用・エコツーリズム
検討会議

河川工作物
アドバイザー会議

ヒクマ保護管理方針
検討会議



「知床で今何が起きているの!」「どんな調査が行われているの!」など、タイムリーな情報をお伝えします。

構成メンバー

- 梶 光一 (東京農工大学教授 (座長))
- 石川 幸男 (弘前大学教授)
- 宇野 裕之 (道総研環境科学研究センター 研究主幹)
- 川路 則友 (森林総合研究所北海道支所長)
- 鈴木 正嗣 (岐阜大学教授)
- 常田 邦彦 (自然環境研究センター 研究主幹)
- 間野 勉 (道総研環境科学研究センター 研究主幹)
- 日浦 勉 (北海道大学教授)
- 松田 裕之 (横浜国立大学教授)
- 宮木 雅美 (酪農学園大学教授)

今回の会議

6月12日 (日)
釧路市生涯学習センターで今年度第1
回目の会議がありました。

エゾシカ ワーキンググループって?

知床半島において、エゾシカや陸上生態系の管理をどのように進めるのか議論するための会議です。
この会議で出された意見をもとに、さまざまな事業が進められています。

必見! TOPIC

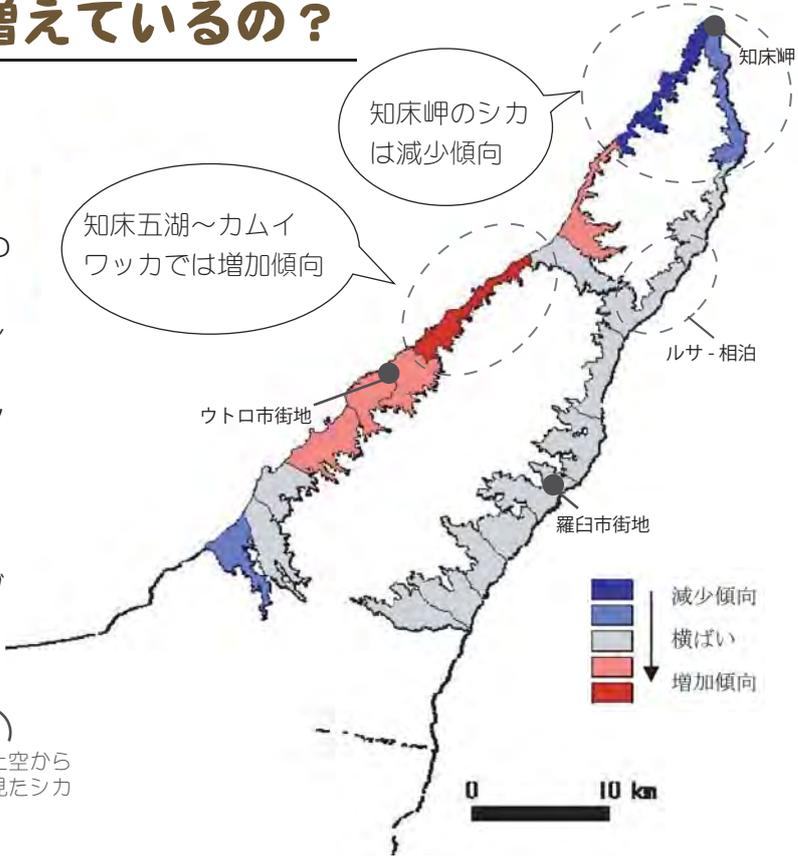
エゾシカは増えているの?

2011年2月、ヘリコプターからエゾシカの数把握する調査を行いました。
その結果、知床半島全域で計3930頭のエゾシカを確認しました。(調査では見落としが発生するため、実際にはさらに多くのシカが生息しているはずです。)

2003年の前回調査と比べると、エゾシカの数、斜里側の知床五湖～カムイワッカ地域で増加した一方、羅臼側で横ばい状態、知床岬では減少していることが確認されました。知床岬では、2008年からエゾシカの捕獲を行っており、その効果が出ていると考えられます。



ヘリコプターを使って上空からシカの数をかぞえている様子



知床半島におけるエゾシカ個体数の増減
※2003年と2011年に実施したヘリコプターカウント調査をもとに作成。

今回話し合ったこと

- ① エゾシカに係わる事業の報告と予定
- ② 遺産地域内でのエゾシカの捕獲について
- ③ エゾシカ管理計画の見直しについて
- ④ 個体数調整に関する植生指標について

注目!

① エゾシカに係わる事業の報告と予定

会議では、昨シーズン、知床半島で計920頭のシカが捕獲されたことが報告されました(有害捕獲のみ、狩猟による捕獲を除く)。シカによる植生への影響を緩和するためには、捕獲頭数のさらなる上積みが必要ですが、そのためには超えるべき課題がいくつもあります。効率のよい捕獲手法を開発することが重要ですが、銃を使用シカを捕獲する場合は、シマフクロウやオジロワシといった

希少猛禽類への配慮が必要で、ルサー相泊地区で導入が検討されている、道路を移動する車上から銃を発砲する捕獲方法を実現するには、特別な許可を得る必要があります。

ルサー相泊地区で導入が検討されている、道路を移動する車上から銃を発砲する捕獲方法を実現するには、特別な許可を得る必要があります。

この地区は2011年冬のカウント調査で約1200頭のシカが確認されており、知床半島でもシカの生息数が特に多い地域です。一大観光地の知床五湖や斜里町が進める100平米運動が行われているこの地区で、

注目!

② 遺産地域内でのエゾシカの捕獲について

〜幌別〜岩尾別地区〜

この地区は2011年冬のカウント調査で約1200頭のシカが確認されており、知床半島でもシカの生息数が特に多い地域です。一大観光地の知床五湖や斜里町が進める100平米運動が行われているこの地区で、

検討が行われました。

得る必要があります。

会議では、これらの問題とどのように整合性を取り、今シーズンのシカの捕獲を進めていくのか意見交換が行われました。

提案された捕獲手法は、餌を使ってシカを柵の内側に誘い込み、扉を閉めて捕獲する囲いワナや足にワイヤをかけたシカを捕獲するくくりワナ、麻酔薬でシカを眠らせて捕獲する麻酔銃による捕獲手法、餌付け場に出てくるシカを銃で捕獲する手法(SS)、銃を構えたハンターがいる場所へシカを追い込んで捕獲する手法(巻狩り)などです。また、北米で実践されている大型囲いワナについて紹介があるなど、効率のよい捕獲を実現するため真剣な話し合いが行われました。

会議の結果、この地区では捕獲の試行を始める前に1年間かけ、野外検証を行いながら、効率のよい捕獲手法(実施場所や捕獲手法の組み合わせなど)を探っていくことになりました。



昨シーズン、SSでは25頭、囲いワナでは113頭捕獲されたそうです。(ルサー相泊地区)



ルサー相泊地区では、餌付け場に出てきたシカを銃で捕獲する手法(シャープシューティング、略称SS)(上)や、囲いワナ(下)による捕獲が試行されました。

会議の内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

他にも知床で行われている様々な研究データをご覧いただけます!



■問合せ先■

環境省釧路自然環境事務所
〒085-8639
北海道釧路市幸町10-3 釧路地方合同庁舎4階
TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

座長の幌
です。



今から30年前の根室標津でシカ研究を始め。以来、洞爺湖中島、日光でシカ研究に従事しています。

江戸時代に松浦武四郎が作成した北海道地図には、知床の小沢まで含めて詳細な地名が記されています。昭和の初期まで知床岬に集落がありました。この世界遺産地域においても、古来から人々はシカを含めた自然資源を利用してきたと考えられます。地に溢れんばかりのシカたちとどう立ち向かうか、新しい仕組みづくりが求められています。

座長 幌光一